

お母さまは太陽

小川未明

青空文庫

「お母^{かあ}さんは、太陽^{たいよう}だ。」という^{わたくし}ことが、私^{わたし}にはどうしてもわかりませんでした。そうしたら、よくもののわかった、やさしいおじいさんが、つぎのようなお話^{はなし}をしてくださいました。

* * * * *

わしは、子供^{こども}の時分^{じぶん}、おおぜいの兄^{きょうだい}弟^{だい}がありました。そして、みんなが、お母^{かあ}さんを大好き^{だいす}でした。みんなは、朝^{あさ}起きると、眠^{ねむ}るときまで、楽^{たの}しいことがあったといい、悲^{かな}しいことがあったといい、「お母^{かあ}さん、お母^{かあ}さん……。」「いいいました。そして、お母^{かあ}さんの後^{うし}ろについたものです。昼^{ひる}間^まがそうあつたばかりでなしに、夜^{よる}になって寝^ねるときも、みんなは、お母^{かあ}さんのそばに寝^ねた

いといって、その場所を争いました。それで、お母さんを真ん中にして、四人の子供らが左右・前後に、輪になって休みました。みんなは、いずれも、お母さんの方に顔を向けて休んだのです。それは、ちょうど、草が、太陽の方を向いて花を開くのと同じだったのです。

だれでもそうであるが、私たち兄弟・姉妹は、大きくなつてから、いつまでもお母さんのそばにいつしよにしていることができなかった。

わしも、なつかしい、やさしいお母さんのそばを離れて、旅へ出るようになった。そうすると、子供のときのように、お母さんのそばで楽しく、平和に寝たように、眠ることができなかつた。

けれど、お母さんかあを慕したう情じようはすこしも変かわらなかつたのです。

「もう一度ど、ああした子供こどもの時分じぶんに帰かえりたい。」と、思おもわないこととがなかつた。

そしてまれに故郷こきようへ帰かえつて、お母さんかあを見るみことは、どんなに楽たのしかつたかしれません。遠とおく故郷こきようを離はなれて、他国たこくにいるときでも、いつもやさしいお母さんかあの幻まぼろしを目めに描えがいて、お母さんかあの

そばにいるときのように、なつかしく思おもつたのでした。ちようど、太たい陽ようが、雲くもに隠かくれていて見えなくても、花はなは、その方ほうを向むいて、太たい陽ようのありかを知しると同おなじようなものでありました。

いま、わしの母ははは、もうこの地ち上じようには、どこを探さがしても見みいだすこととができない。そして、母はははあの、夜よるというもののない天て

国へ行って、じつと、自分の子供たちがどうして暮らしているかと見ていなさることと思っている。それで、わしは、この年寄りになっても、西の夕空を見るたびに、なつかしいお母さんの顔を目に思い浮かべるのです。

これは、一人、わしばかり考えることでなく、わしの兄弟・姉妹が、みんな同じようなことを思っている……。お母さんが太陽だということは、これでもわかるでありますよう。

* * * * *

これが、ものわかりのいい、人のいいおじいさんのお話でした。私にはよくその意味がわかった。また、みなさんが、草や、花なら、お母さんは、まさしく太陽であるといえるでありますよう。

——一九二六·一二作——

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 5」講談社

1977（昭和52）年3月10日第1刷

※表題は底本では、「お母《かあ》さまは太陽《たいよう》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2014年1月18日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

お母さまは太陽

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>